



防災士よこはま

日本防災士会横浜支部通信

第16号 NO. 016

日本防災士会横浜支部
支部長 今井 淳
事務局長 早乙女善彦

発行日 2017年3月5日

「要援護者HUG・要援護者トリアージ」研修会報告

平成28年度「事業計画」に基づき、日本防災士会横浜支部会員に対するスキル・アップを目的とした HUG・トリアージについて2部構成で実施いたしました。今回の研修会は、日本赤十字社神奈川県支部の赤十字防災ボランティアの皆様とのコラボ研修会で実施いたしましたのでご報告いたします。

日 時 実施日時 平成29年3月5日 13:00～17:00

場 所 日本赤十字社神奈川支部 7階研修室 横浜市中区山下町70-7

参加者 17名 防災士会横浜支部:11名、赤十字防災ボランティア第1ブロック南:6名

次 第 今井支部長あいさつ

第1部「要援護者HUG(避難所運営ゲーム)」

第2部「避難所受付での要援護者トリアージ」

■第1部:要援護者HUG(避難所運営ゲーム)」について

HUG については、日本防災士会横浜支部の長沼副支部長が講師となり、パワーポイントを使いHUG について説明があり、その後、3グループに分かれ、講師から渡された、避難所となる学校の図面とカードに従って避難してくる要援護者を必要な位置に誘導案内することをグループで検討してゆくことを確認する訓練を実施し、その後でグループの代表者が講師の設問について理由を発表して第1部を終了した。

休憩(10分間)

■第2部:避難所受付での要援護者トリアージ」について

要援護者トリアージについては、赤十字防災ボランティア第1ブロック南代表の乾さん(日本防災士会横浜支部幹事)が講師となり実施致しました。講師より説明を受けたあと、参加者全員が2人ずつペアになり、一組のペアは避難所受付の役割になり、もう一組のペアは避難者。要援護者のトリアージに特化した事案を書いたカードを避難者ペアに渡しておく。受付ペアはそれを受付時に口頭で聞き出して、4つの場所のうち妥当と思われる場所へ案内するゲーム。全員が受付と避難者役をします。笑いあり、見事な話術で要援護者の情報を聞き出していた。



1. 要援護者トリアージの目的

- (1) 要援護者の災害関連死の予防
- (2) 要援護者の疾病予防・二次災害の予防
- (3) 避難所における部屋割りやケアの必要性の判断基準
- (4) 福祉避難所への後方搬送に繋げる。

2. トリアージ・ラベル表示についても4段階に分かれる。

(1) 病人・具合の悪い人

◆判断基準の例

…病人・出血を伴うケガ人・痛み・顔色が悪い人冷や汗。呼吸困難等の症状のある人、発熱・下痢・嘔吐をしている等具合の悪い人

◆避難・搬送先の例：病院に行くまでの待機場所〈保護室〉すぐに手当てが必要

(2) 日常生活に全介護が必要

◆判断基準の例

…食事・排泄・移動が一人で出来ない人・寝たきり状態・車イス・家族などの付き添えがない人

◆避難・搬送先の例：福祉避難所に行くまでの待機所

(3) 日常生活に一部介助や見守りが必要

◆判断基準の例

…食事・排泄・移動が一部介助で出来る人・産前・産後・授乳中の人、医療処置を行えない人、3歳以下とその家族・精神疾患を持っている人（認知症を含む）

◆避難・搬送先の例：小部屋・福祉避難部屋（思いやりルーム）

(4) 自立

◆判断基準の例

…歩行可能・健康・介助がいらない・家族の介助ある。

◆避難・搬送先の例：大部屋・体育館など

今回の研修会は、日本赤十字社神奈川県支部の防災ボランティアの皆様との異なる防災機関とのコラボ受講大変有意義でした。

お互いに防災を志す組織として、災害に於いて知恵を出し合い、多様なニーズに対応し、災害活動のレベルアップに取り組み被害の軽減を図ることを目的に、これからも多くの他の行政機関や防災機関との関わりを図って行きたいと思っております。

今回の、HUG・トリアージ研修会は大変今後の「避難所運営」また、避難者の中には、いろいろな症状を持った人が避難してきます、その人たちを「トリアージ」によって避難場所を決めて行く事などを学び大変参考に成りました。

また、日本赤十字社神奈川県支部の防災ボランティアの皆様とのコラボ講習会をこれからも続けて行きたいと思えます。

日本防災士会横浜支部

支部長 今井 淳

【会場写真】



今井支部長あいさつ



第1部:要援護者HUG(避難所運営ゲーム)



第2部:避難所受付での要援護者トリアージ



以上